

王子市民ギャラリー

所在地 神戸市灘区
ギャラリー（現在）
図書館（改修前）

竣工 1904年

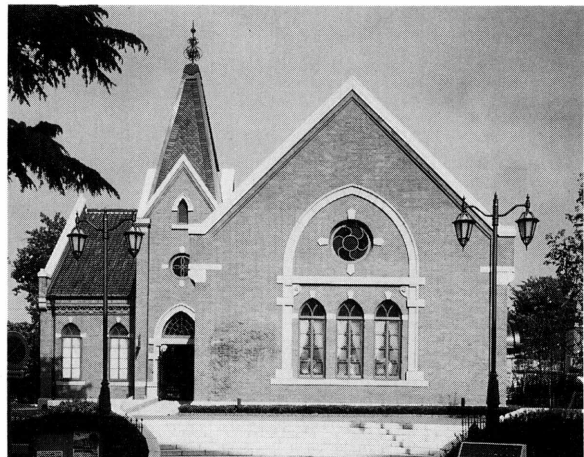
改修 1993年

所有者 神戸市

設計者 神戸市住宅局営繕部

(株)一粒社ヴォーリズ建築事務所

施工者 (株)新井組 松尾電設工業(株) 近畿設備(株)



〈審査評〉 本建築は、1904（明治37）年、関西学院のチャペル兼講堂として煉瓦造で建てられた。設計者は英国人 M. Wignall、施工者は吉田伊之助といわれる。

1929（昭和4）年、関西学院移転後、暫くして本建築は神戸市により取得された。1945（昭和20）年6月神戸大空襲で本建築は被災、塔を失い、屋根及び内部を焼失した。1949年、翌年開催の神戸博覧会で活用するため修復され、その後アメリカ文化センター、神戸市王子図書館として1989年まで使用されたものである。

明治における煉瓦造教会堂としての建築的価値に加え、種々の歴史を刻んできたものであるが、戦争直後の改修部の老朽化、火災を受けた煉瓦壁体の老化により、その保全が危ぶまれていた。

1989年4月、図書館の移転による閉鎖後、神戸市によって利用法が検討され、本建築を神戸市に残る歴史、文化財的建築と価値づけ、「旧王子図書館を改修し、市民に作品発表や鑑賞の場を提供する市民ギャラリーとして整備すること、そして改修にあたっては、旧関西学院チャペルとしての外形をできる限り復元する」方針が打ち出された。

改修設計に当たっては、旧チャペルの建築復元と、展示ギャラリーとしての機能整備の両立調和を狙っている。主な復元部分としては、塔及び尖塔の復元、煉瓦壁の修復、ハンマービームトラス小屋組と日本瓦葺屋根の復元などがある。

構造的には、煉瓦壁内側に15 cm の鉄筋コンクリート壁補強を行っている。

1995年1月の阪神・淡路大震災では、屋根瓦の一部が被害を受けたものの、本体には影響が殆どなく、改修工事の成果があったといえよう。10月からサービスを再開している。

全体として、所有者神戸市がこの建築の価値を評価し、その復元と市民サービスの両立を狙われた見識、そしてその神戸市の意図を高いレベルで実現された設計者と施工者に敬意を表するものであり、本建築はBELCA 賞の受賞に相応しい建築であると認められた。

なお、審査委員会では、以下の点について論議のあったことを付記する。利用率が高くなく、多少違和感がある、などで本建築の利用形態として市民ギャラリーが一番適切であったかどうか、また、バトンによる照明方式が最適であるかどうか、などである。